

佐藤 みき

市政報告



佐藤みき事務所

〒878-0026 竹田市大字飛田川2112

携帯 090-1165-4745 E-mail satomiki38@gmail.com

ホームページ「佐藤みき.net」右のQRコードをお読みください



令和3年度第1回定例会が開催され、新年度の市の予算が示されました。来月の市長選挙を控え、骨格予算の段階です。これまで通り政策提言を重ね、政策の精度を高めていきたいと思えます。

前号で竹田温泉 花水月の運営について記事を掲載しました。大変多くの方からご意見が届きました。「赤字経営と知らなかった」「生活の一部として利用しているので、ぜひ無くさないで欲しい」「自分は利用しないので閉館でもよい」と様々なお声をいただきました。

私としては、観光客向けというよりも、市民のための健康施設として継続させたい思っています。今回は、件の花水月の審議内容も併せ、3月議会報告と私の市政ビジョンを掲載します。

3月定例会 一般質問と予算委員会質疑の報告

①地籍調査について

地籍調査の進捗率を確認しました。久住地域は進捗率90.8%、荻地域は67.3%、竹田地域は17.8%となっています。直入地域は完了しています。

農地の基盤整備を行う際に、地籍調査が行われていない地域では、地権者の立ち合い確認作業から始められません。高齢化や所有者不明の土地が増え、地籍調査が困難になると、基盤整備が進まなくなる恐れがあります。耕作放棄地の対策としても地籍調査を進めるよう意見しました。

また、中九州高規格道路の計画区域は、道路の早期完成のためにも地籍調査を早く進めるよう要望しました。【農林整備課】

②コロナ禍の経済対策について

コロナ禍の影響を受けた事業者に対し、市が家賃及び電気料などの助成を行いました。その施策の検証を質しました。8割の事業者が効果を実感しているとのことでした。

市として、今後も事業者支援を行うことと、経済を回復させるための次の施策を検討していくとの見解を得ました。【商工観光課】

③新型コロナウイルスワクチンについて

竹田市のワクチン接種の取組を質問しました。供給量など未確定な部分がまだ多いため、竹田医師会と調整を図っている段階です（3/8現在）。

接種方法は、個別接種と集団接種になる予定で、「①市が接種券及び予診票を送る ②接種券が届いたら予約 ③接種券と予診票を持参して、指定された日に2回（別日に）接種する」としています。【保険健康課】

▶予算審議「花水月の運営について」

今月末までに花水月の運営方針を民間委託や営業時間短縮などの方針を決定する予定でしたが、コロナ禍で都市部の事業者と話し合うことが困難になり、結論が出せませんでした。

4月以降も、これまで通りの営業となります。今後も運営方法の検討は続けていくとのことです。

私たちはどんな「まち」に暮らしたいだろうか。

まちづくりとは何か。いつも議員活動の中で自問自答しています。一見すると、活性化＝イベントのように思えます。イベントで一過性の賑わいは作れますが、人が留まり暮らす仕組みには至りません。

月並みな言葉ですが「安心・安全な暮らし」の上に、自然に醸し出される市民の笑顔こそ竹田市の元気度の現れではないでしょうか。

防災・福祉・経済という社会の礎（いしずえ）を強くすることが、私の考えるまちづくりです。「安心」と「希望」があってこそ、竹田で暮らしたいと思うのです。

市民の生活を支える仕組みを作る。それが市政の役割だと考えます。

佐藤みきが提案する

3つの安心



① 命・暮らしをまもる「**防災**」の推進

- ・大規模停電時に備え、避難所に非常用発電を配備します。
- ・災害・避難の情報を竹田ケーブルテレビやスマホを活用して、早く・細かく知らせる情報発信の仕組みを作ります。

② 赤ちゃんからお年寄り、障がいのある人、みんなを支える「**福祉**」の充実

- ・保育と教育、障がい児支援の充実を図り、子どもたちの成長を支えます。
- ・買い物や通院が困難な人のために交通網を整えます。

③ 希望がみえる「**経済**」の活性化

- ・コロナ禍で困っているお店や企業に経営支援をします。
- ・企業を誘致するために専門員の配置を進めます。

コラム～選挙について思う事～

来月4月11日の告示、18日の投開票で市長・市議会議員選挙が行われます。12月の議会改革調査特別委員会において改選後の議員定数を話し合いました。

私は、現行の16名から**2名減らす14人を提案**しました。他の議員からは賛同を得られず、結局16名のままとになりました。4年前に比べると有権者数は約2,000人減少し、今期は18,453人（昨年12月末時点）となっています。

次期選挙はあわや定数割れかという話まで漏れ聞こえます。きちんと選挙され、付託を受けた議会でなければ、市民の声を正しく反映できません。

人口に見合った議員定数にしていくことは次回の大きな課題です。

そして、若い人が議員となり、「市をよくしたい」「まちづくり」をしたいと思ってくれるような手本を示すことを自訓とします。